

利用者名 : デザイン学部 講師 相野谷 威雄



Title: Research on Factors Influencing Self-medication from UX Perspective

(UX の観点から見たセルフメディケーションに影響を与える要因に関する研究)

Authors: Zhang, Sirui, Kasamatsu, Keiko, Takeo Ainoya

(Zhang, Sirui, 笠松慶子 (東京都立大学), 相野谷 威雄 (東京工科大学))

Journal: Human Interface and the Management of Information(HCII 2024)

掲載年月: 2024 年 6 月

研究概要: セルフメディケーション (自己治療) は世界各国で広く行われていますが、不適切なセルフメディケーションによる健康被害が問題視されています。世界保健機関 (WHO) の報告によると、世界で患者の 3 分の 1 が不適切なセルフメディケーションにより死亡し、7 分の 1 が健康被害を受けています。本研究では、ユーザーエクスペリエンス (UX) の観点からセルフメディケーション行動に影響を与える要因を調査しました。

研究成果: 研究手法として、中国と日本を中心に、計 5 か国において 17 名の参加者を対象としたインタビュー調査とアンケート調査を行いました。収集したデータを質的分析し、セルフメディケーションを行う際の行動プロセスを 5 つの段階に整理しました。分析の結果、セルフメディケーションの行動は各国の法律、医療政策、文化習慣と密接に関連していることが示されました。

社会的・学術的なポイント: 研究から明らかになった主な知見として、セルフメディケーションにおいて安全性を担保するためには、患者と薬剤師双方のヘルスリテラシーの向上が必要不可欠であることが示されました。また、各国の法律、医療政策、文化的背景がセルフメディケーション行動に大きな影響を与えていることが明らかとなりました。本研究は、UX という視点からセルフメディケーション行動を分析した点に新規性があり、今後のセルフメディケーションに関する教育プログラムや薬剤師教育への示唆を与えるものです。